

## 平成 15 年度環境監視結果年報の概要

### 1 結果取りまとめの期間

平成 15 年 4 月から平成 16 年 3 月まで

### 2 環境監視の項目

大気質、騒音・振動、悪臭、海水の流れ、水質、底質、汀線、海域生物及び鳥類

### 3 結果の評価

#### (1) 評価の主体

空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会（委員長：岩田好一朗名古屋大学大学院教授）

#### (2) 評価の考え方

環境監視結果を環境基準値、規制基準値及び過年度調査結果並びに環境影響評価書の予測結果と比較し、工事の実施による周辺地域への環境影響の程度を把握することにより、評価がなされている。

#### (3) 評価の内容（総合評価）

##### (1) 環境基準値・規制基準値等との比較

大気質、騒音・振動、悪臭及び水質について、環境基準値や規制基準値等と比較した結果、環境監視結果は、次の場合を除いて環境基準に適合するか環境基準値または規制基準値等以下であった。

- ・ 水質の項目のうち、濁り（SS）については、水産用水基準を超える場合があったが、全て自然要因によるものであり、工事影響の可能性のある濁りは確認されなかった。
- ・ 水質の項目のうち、化学的酸素要求量（COD）、全窒素（T-N）、全燐（T-P）については、調査点 TS5 及び TS6 の化学的酸素要求量（COD）以外は、環境基準値を上回っていたが、愛知県が実施した公共用水域等水質調査結果と比較した結果、ほぼ同様な傾向であった。

##### (2) 過年度データとの比較

全ての項目について、過年度データとの比較（着工後と着工前とのデータ比較）をした結果、環境監視結果は、次の場合を除いて着工前後において値や出現状況にほとんど変化がなかった。

- ・ 沿道環境大気質については、常滑市椎垂木（<sup>しいたるき</sup> 県道碧南半田常滑線）では浮遊粒子状物質（SPM）の平均値、1 時間値の最高値が一般車両を含む全車両交通量の増加等に伴いやや高く、常滑市千代ヶ丘（市道<sup>きたじょうむかいやま</sup> 北条向山線）では一般車両を含む全車両交通量の増加等に伴い二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）が高く、浮遊粒子状物質（SPM）の平均値がやや高かった。

- ・ 道路交通騒音については、常滑市千代ヶ丘（市道北条向山線）の昼間においては一般車両を含む全車両交通量の増加等に伴いやや高かった。
- ・ 海水の流れについては、空港島南の小鈴谷沖局では表層の流速が若干小さくなっている傾向がうかがえた。
- ・ 底質については、調査点 TS6 において全燐（T-P）がやや高かったが、一時的なものと考えられた。
- ・ 汀線位置については、着工前の平成 5 年から着工後の 15 年までの長期間では、ほとんどの区間で前進又は後退の様々な変化がみられたが、平成 14 年から 15 年の短期間では、大きな変化はみられなかった。
- ・ 鳥類については、工事の進行に伴い生息環境が変化し、スズガモ等の出現数に変化がみられた。

なお、沿道環境大気質及び道路交通騒音については、高い場合があったものの、事業者においては、資機材についてはほとんど海上輸送を行うとともに、作業員については中継基地を利用した集約輸送を行い、交通量の減少に努めていることから、工事による影響は少ないものと考えられた。

### （ 3 ） 予測結果との比較

一般環境大気質、建設作業騒音・振動について、予測結果との比較をした結果、苅屋局の二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）の 1 時間値は予測結果とほぼ同程度であり、建設作業騒音・振動は全ての地点で低かった。

### （ 4 ） まとめ

平成 15 年度の環境監視結果では、工事に伴う環境への影響はほとんど認められなかった。

なお、底質、汀線、海域生物及び鳥類については、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要がある。

#### 4 今後の対応

平成15年度の「空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会」の評価を踏まえて、中部国際空港株式会社及び愛知県は、次の対応を行なう。

##### 適切な環境監視の実施

今後の工事の進捗に応じて、引き続き環境監視を実施していく。

なお、評価のなかで特に指摘のあった事項については、次のとおり対応することとする。

##### 底質

底質については、シルト・粘土分の割合、全硫化物が一時的にやや高かった調査点がみられることから、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要があるとされた。

このため、今後とも環境監視計画に基づき、底質の変化に注意して監視を継続していく。

##### 汀線

汀線については、周辺の地形はもとより、気象、海象等の様々な影響を受けるものである。したがって、汀線変化の傾向を把握するためには、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要があるとされた。

このため、今後とも環境監視計画に基づき、汀線の変化に注意して監視を継続していく。

##### 海域生物

海域生物は、自然環境下において変動が大きいことなどから、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要があるとされた。

このため、今後とも環境監視計画に基づき、海域生物の変化に注意して監視を継続していく。

##### 鳥類

カワウ生息数、カモメ類等水鳥・カワウ出現状況は年によって大きく変動する場合があることや、埋め立て状況の変化によりカモメ類等水鳥・カワウの生息状況が変化することから、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要があるとされた。また、ワシタカ類等の渡り状況、飛翔経路、飛翔高度とも年変動を考慮する必要があることから、空港供用に伴うワシタカ類等の渡りへの影響を把握するためには、今後もその変化に注意して監視を継続していく必要があるとされた。

このため、今後とも環境監視計画に基づき、カワウ生息数、カモメ類等水鳥・カワウ出現状況の変化並びにワシタカ類等の渡り状況、飛翔経路、飛翔高度の年変動に注意して監視を継続していく。

#### 5 環境監視結果年報の公開

環境監視結果年報については、常滑市新開町の環境監視センターや関係市町の庁舎において公開するとともに、インターネットを通じてその概要を公開する。

<http://www.pref.aichi.jp/kigyo-chosei/>

<http://www2.cjiac.co.jp/kankyo/>

(参考)

空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会構成員

委員	委員	委員	委員	委員	委員長	区分
吉久光一 よしひさ こういち	細川恭史 ほそかわ やすし	工藤盛徳 くどう せいとく	北田敏廣 きただ としひろ	小笠原昭夫 おがさわら あきお	岩田好一郎 いわた こういちろう	氏名
名城大学理工学部建築学科教授	国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部長	東海大学名誉教授	豊橋技術科学大学エコロジー工学系教授	名古屋学芸大学非常勤講師	名古屋大学大学院工学研究科教授	役職等